



あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。
第 165 号 2021 年 4 月 10 日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

4月号
2021



ベテルギウス玄関
4月2日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」主催
「やまと国際アートフェスタ」入賞作品を掲載しています。

今回のテーマ：

～ささえたい、私たちの世界、いま私にできること～

「バラード賞」受賞

瀧川 チエミ さん

草柳小 2年（ブラジル）の作品です。

タイトル：「自然」

メッセージ：

世界はもっと自然を必要としているから
あの絵を描きました。

～「やまと国際アートフェスタ」は

草の根の国際交流、外国人支援を行いながら
「ともにくらすまち 大和」を考えていく
ボランティアグループ「やまと国際フレンドクラブ」
(IFC)主催で毎年催されています。

2021年度 協働事業「大和市民活動センター管理運営事業」

事業を立ち上げて 16 年、設立当時とても印象に残る言葉があります。他市からの挨拶に「私共は既に 10 年以上になりますが、今後の変化の中でも“中間支援の柱”はシッカリ立てていきましょう。」また“市民活動とは？”の話し合いで、小杉会長が「皆さんのタンスにある知識・経験の引出しを皆さんに向けて開けてみましょう！」事務局石川さんが「老若男女みんなが集まる環境で、問題も出るでしょうし、皆で解決していく…当たり前のことでは？」何も知らない公募の私が、仲間に入れてもらった瞬間でした。

昨年4月7日（火）新型コロナウィルス感染症緊急事態宣言の前後に市民活動課・臨時スタッフ会議をして“部室利用停止”“消毒液の設置”“オンライン・在宅勤務”も併用して導入しました。が、議事録をみると「5月6日（水）までに…」の文言が多く、当時の認識不足がハッキリ分かれます。この環境下で活動・イベント・研修・業務体制も変わりました。館内の利用も3割以下になり、特に市民交流スペースは閉鎖同様の入りです。窓口業務は減りましたが、他の手段での関りも増えました。初心に戻って「市民活動の拡大」を再認識して業務運営に携わりたいと思います。

「拠点やまと」会長 望月則男

第94回 共育セミナー報告

カッコーフェスタ'20の登録団体“動画”を見ての『意見交換交流会』
～参加者のみんなが“しゃべり手”みんなが“聞き手”～を ZOOM で開催しました

「活動をつなぐ・拡げる」役割を發揮

ONLINE での共育セミナー。どうなることかと思っていましたが、参加団体の動画作成に工夫が感じられ、とにかく面白く楽しかったです。

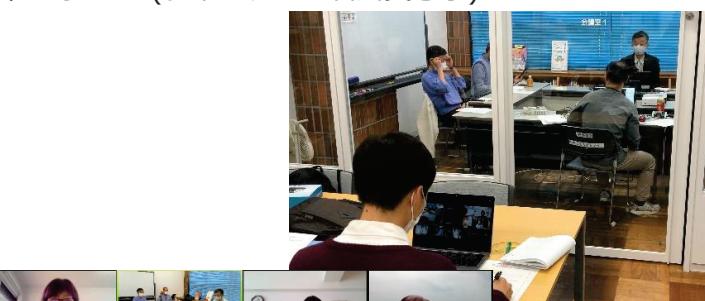
コロナ禍では対面での活動が出来ない状況で、それの団体が工夫して活動を続いていることに感動を感じました。

参加された団体同士がそれぞれの動画を観て、この部分は繋がれるのでは？と思われるいくつかのアプローチがあったことは大きな成果だったと思います。参加してよかったですと思われるセミナーになったのではないかでしょうか。

動画作成にあたっては、市民活動センターのサポートが大きかったとの感想を聞いて、スキルを持って団体の活動支援が出来たことはとてもよかったですと、元スタッフとして誇らしく思いました。そして、活動をつなぐ・拡げるという本来のセンターの役割が発揮できたことも ONLINE セミナー開催の成果と思われます。

コロナ禍にあって、カッコーフェスタ、共育セミナーと ONLINE で開催できることは、新しい市民活動の可能性の広がりを感じました。人間はピンチをチャンスに変えられる能力と知恵を持っていると、参加団体の活動を頼もしく思いました。コロナ感染が収束し、人と人が会ってつながりを実感できる日まで、工夫を重ねて活動をつなげていただきたいと、心から思いました。

参加された方から手話で拍手の仕方を教えていただき、参加者全員が手話拍手で称え合えたのもよかったです。ZOOM での参加でも違和感なくセミナーに参加出来ました。（サポートー：石川美恵子）



少し緊張—イベント運営としての改善点も

私は「玉すだれ演芸の会大和」の紹介動画を作成し、製作者の立場から「こういう動画を作れたらいいな」という話を聞きたいなどと思い参加しました。

共育セミナーに参加して、1つ目に写真や動画を簡単に組み合わせただけの動画も、注目を集めていたことに気づきました。「引地川水と緑の会」は、撮影した引地川の動画や、小中学生が川に入ってゴミを集めている動画を単純に繋いで、文字をほとんど使わずに動画を作っていました。ですが、参加者から「文字がない分、訴えるものがある」といった話もありました。複雑な技術を使うよりも、そのままの動画や写真で表現する方が伝わる時もあるのです。

2つ目に多くの市民活動団体が自分で動画制作できるよう望んでいることを気づきました。「動画を作る技術を身につけるためにセンターの方々からまたお話を聞きたい」と話す参加者もいました。センターとしてもよりよく伝えられる方法を模索する必要があると思いますが、サポートーとしては動画制作が得意な団体が中心に教え合う関係があつてもいいのではないかと思いました。

一方で今回の共育セミナーでは、雰囲気が硬さから話しづらさを感じ、質問時間も短く思ったことから、参加者との交流に物足りなさを感じました。共育セミナーには正装の方もいて、進行も時間の区切りを細かくやっていたので少し緊張してしまいました。

参加者が気軽に交流するために、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使って、少人数で自由に話せるような場があればいいなと思います。時間でメンバーが入れ替われば色々な人たちと話せるのではないでしょうか。イベント運営としての改善点も見えたと思います。（サポートー：尾畠 翼）

市民活動センター登録団体 活動の現場から

コロナ禍における登録団体の活動報告を受けました

WEB版インターナショナルフェスタ 2021
～ZOOMでつなごう！手と手、心と心～
3/27（土）大和市民活動センター会議室から中継

やまと国際フレンドクラブ（IFC）長谷部美由紀さん

文字通り「手と手、心と心が繋がる インターナショナルフェスタ」となりました。思ったよりもたくさんの方々が参加してくださって、日本だけでなく、ブラジル、台湾からの参加者もあり、充実した時間を過ごすことができ、とても素敵なおフェスタになりました。



写真提供：やまと国際フレンドクラブ

出身国もブラジル、台湾、中国、アゼルバイジャン、ロシア、日本と6カ国の方たちと、ご自身の国のコロナの状況やワクチンの様子、このコロナ禍での想いや工夫、コロナが終わった後にやってみたいことなどをお話しいただき、交流することができました。

Zoomで会えば、距離も国境もコロナも関係なしで、会って話すことができる事を実感して、なんだか嬉しくなりました。

「とても楽しかったので、また、ぜひ参加したい」
「これからもこのような機会を作りたい」
「初めてなので、何を話したらいいか悩んでいたけれど、みんな話すうちに仲良くなれたのがよかったです。いつか日本で会いたい」という感想も届いています。

リアルなイベントでないと交流ができない、IFCの活動の幅が狭まってしまったと、嘆くばかりでいましたが、コロナ禍だからこそ、実現できたこのフェスタ、できないことを数えるよりも、できることを実現していくことの大切さを実感しました。



大和市民活動センター利用登録のお知らせ
毎年4月に登録更新をお願いしているところではあります、コロナ禍におけるみなさまの負担を軽減するために、更新時期をずらしました。団体の代表者、連絡先等変更がございましたら、センターまでご連絡下さい。

新年度は「安心して参加できる環境づくり」

「引地川水とみどりの会」の報告会が3/27（土）オンラインで開催されました。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、主催事業の引地川の清掃活動はできず、小学校等の出前講座、ビーチクリーンアップ、産業フェア・環境展も行えなかつたとのことです。

新年度はまず、「安心して参加できる環境づくりをする」ということで、着替え時・ゴミ拾い時・分別時において得られる感染対策が全て行われます。その上で、川の清掃活動を7月～11月に6回開催する予定です。始めてからもその時々の状況をみて、対策をしていくとのこと。その他の事業も依頼があればできるように、準備と対策を立てておられます。

報告会に参加し、水とみどりの会が、多くの活動団体と交流を持って活動されていることもよくわかりました。

地球環境を考えると
待ったなしの活動！
これからもぜひ続けてほしい活動です。
市民活動センターとしても応援していく
たいと思いました。
(櫻井)



4月2日（金）曇り

今日からお世話になります。
懐かしい場所での勤務になって、この文章を書くのが、ここでの初仕事です。

「趣味は」と聞かれると「うーん？」と考えてしまいますが、トータル的に言うと、「人と出会うこと」だと思います。

一番は、カメラ（写真を撮ること）ですが、「京都への旅」の講座をあるカルチャーセンターで受講したときに今師匠の講座を知り、板橋の花火大会の撮影をしたのが本格的なカメラライフの始まりでした。そして、その師匠の撮影フィールドがイタリアで、イタリア語も喋れて、ワイン好きということから、必然的にぼくの趣味に「イタリア旅行」、「ワイン」も加わりました。「イタリア語」だけはまだまだです。

そのほか、テニス、錦織圭、カミラ・ジョルジ、オーストラリア、台湾、京都芝居、版画、障がい者アート等とさまざまなことに関心があります。

趣味の話に終始してしまい申し訳ありません。「拠点やまと」でのみなさんとの出逢いを楽しみにしています。

船越 英一



大和市民活動センターから展示コーナーのご紹介

団体・個人の活動を紹介することで みなさんの活動の成果を見て・聞いて・知ってもらいましょう！



写真クラブ写遊

助成金情報

2021年度「子ども第三の居場所」

1. 常設ケアモデルの運営事業

週5日以上開所し、課題を抱えた子ども一人ひとりに、手厚いスタッフ体制による学習支援や生活支援、豊かな体験機会の提供等を行うモデルです。

2. 学習・生活支援モデルの運営事業

すでに市から受託した事業や自主事業として学習支援事業を行っている団体が、課題を抱える小学生低学年を中心とする子どもを対象に、週3日以上開所し、学習支援に加えて、基本的な生活習慣を身につけるための支援などを行うモデルです。

3. コミュニティモデルの運営事業

地域の子どもたちが気軽に立ち寄れる居場所を週3日以上開所し、地域の人々との交流を通じて人と関わる力や自己肯定感を育むとともに、課題を抱える子どもの早期発見や見守りを行うモデルです。

募集期間：4月30日（金）17:00まで

※インターネットによる申請のみ

主催：公益財団法人日本財団

お問い合わせ先：日本財団経営企画広報部子どもサポートチーム

E-mail : 100_kodomo_support@ps.nippon-foundation.or.jp

HP : https://www.nippon-foundation.or.jp/grant_application/programs/child-third-place

NOBUKO基金

支援対象分野

- シングルマザー支援を行うNPO等の活動
- 虐待を受けた子どもに対する支援を行うNPO等の活動
- 潜在的能力がありながら、何らかの事情で能力を伸ばせない子どもに対する支援を行うNPO等の活動

募集期間：4月23日（金）17:00まで

主催：公益財団法人パブリックリソース財団

HP : <https://www.info.public.or.jp/nobuko-fund>



2021年度

文化芸術・スポーツ等振興活動への助成事業

1. 文化芸術振興部門

2. スポーツ振興部門

3. 助成対象団体又は個人

助成対象となる事業費

原則として、文化芸術・スポーツ事業に必要なすべての経費が対象になります。主に、会場設営費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、講師等への謝礼、旅費等とします。

募集期間：5月15日（土）

主催：公益財団法人ブルボン吉田記念財団

お問い合わせ先 TEL:0257-21-9223 FAX:0257-28-5755

E-mail : zaidan@bourbon-yoshidakinen.jp

HP : <https://www.bourbon-yoshidakinen-foundation.or.jp/culture03.html>



大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第165号 発行日：2021年4月10日

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>

<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>

〒242-0018 大和市深見西1-2-17

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788

e-mail:yamato@ar.wakwak.com

<http://www.kyodounkyoten.com/>